

国語 第6学年 明日への一步を、言葉とともに 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：卒業に向けた文章や詩を読み、自分が受け取った言葉を理由付きで伝える。励ましを一樣に受け入れさせず、どの表現にどんな考えをもったかを音読と交流で確かめる。C(1)力の学習として、言葉と自分の考えの記録。選んだ作品名、印象に残る言葉を自分の言葉で説明した内容、理由、友達の見方を書く。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：言葉と自分の考えの記録を残す。選んだ作品名、印象に残る言葉を自分の言葉で説明した内容、理由、友達の見方を書く。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：前向きな決意だけを正解とする。音読の勢いと作品への理解を混同する。これについて、選んだ言葉と理由を個人で記録してから交流する。将来への不安や迷いも表してよく、私的な内容の公開は求めない。作品ごとの言葉の響きや内容に戻って音読を試す。〔知識及び技能〕(1)ケとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「これから考えていきたい言葉はどれですか。声に出して読むと、どんな響きや意味を感じますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：言葉と自分の考えの記録は紙に記録できる。選んだ作品名、印象に残る言葉を自分の言葉で説明した内容、理由、友達の見方を書く。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：卒業式の決意文を書くことが目的なのか。

返し：C(1)力と〔知識及び技能〕(1)ケが中心である。式の原稿の完成とは分け、作品を読み、声に出し、友達との交流で考えを広げる過程を扱う。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「これからも考えていきたい言葉はどれですか。声に出して読むと、どんな響きや意味を感じますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

